

リスクマネジメント経営の実践！

第1回 新しいリスクマネジメント経営はERMだ！

リスクマネジメントは、一般的には「危険管理」と訳されます。「危機管理」とイコールであると勘違いされがちですが、「危険管理」と「危機管理」は“時間軸”が違います。

「危険」は、まだ事件・事象は発生していません。「危機」は発生時です。事件・事象が発生してからは、対応する人間の経験の差で大きな損失に繋がりがねません。特に、地震・火災など、経験したことがないことには、特に対応できないケースが多いのです。従って、大きな損失に繋がりが、企業経営にとって甚大な損失に繋がりがねません。

経営は、未来の不確実性を、確実性に変える事で安定します。対応する人材で、損失の大きさや経営の安定化に差が出るならば、マネジメントは不完全ということになります。そうしたことに対応できるための「危機管理に強い」人材の育成、組織を構築することで、経営の安定化を計ることが重要であることは間違いありません。

しかし、地震が起きる前の対策として、工場を耐震化するとか、機械に支障が出ないように土台を免震化する事で、地震が起きたとしても、大きな損害にはならないかもしれません。火災においても同じです。火の取扱い注意、油などの取扱い管理などを徹底的に管理することで、発生の可能性を少なくすることができるかもしれません。つまり、起きる前に管理する方が管理しやすい、予算化しやすくなる。つまり、経営を確実性に変えることができる。これが、リスクマネジメント「危険管理」の基本的な考え方です。

整理すると、『「危機管理」…起きてから管理するのは非常に難しく、経営の不確実性が高い。一方、起きる前から計画的にリスクを管理するリスクマネジメント「危険管理」は予算化でき、経営を安定的に管理できる』という結論になります。

さて、ここで「ERM(統合的リスクマネジメント)」ですが、今までのリスクマネジメントよりも概念が広く、危険・危機だけではなく、投資のリスクまでも一元的に管理する考え方で、経営管理そのものになりました。それが新会社法、金融商品取引法で取締役、企業の責任となったのです。

またERMは、ERM経営の結果、売上・利益を伸ばす経営を目指します。その理由は事業の、また投資の失敗を少なくすることで利益になる可能性を増やし、成長する。その結果、次の事業・投資に参入ができ、新たな売上・利益を生むという考え方です。更に、経営資源にリスクマネジメントの概念を入れ込むことで、他社との差別化を図るというものです。

新しい時代の経営資源が、新しい売上に繋がる時代です。新しい経営を学び、成長して欲しいものだと思います。

シニアリスクコンサルタント® 浦嶋繁樹



時流を読む

リスクに対する感性が高まれば、自ずと時代の「先」を読む力が備わってきます。最新ニュースをリスクマネジメントの視点で分析し、今後の展開や社会への影響を予想してみましょう。

新興国の中間層開拓 健康・文具など内需企業

景気低迷、マーケット縮小に悩む日本企業だが、アジアの中間層をターゲットにした参入が目立つ。大塚製菓はジャワ島に新工場を建設し、ポカリスエットを製造。大正製菓は米プリストル社のアジア大衆薬事業を買収し風邪薬や胃腸薬を発売する。また、プラスはハサミやホチキスを、三菱鉛筆はボールペンなどを中国で発売。キングジムはベトナムやインドネシアでファイルを、コクヨはノートなどをベトナムで販売する。

アジアの中間層（世帯可処分所得5,001ドル～35,000ドル以下）は8億8千万人という。日本の人口の7倍以上のこのマーケットを日本企業がねらう。

一方東アジア首脳会議では、ASEANを核に交通・通信などのインフラ事業に10年間で18兆円を計画している。こうしたアジアの経済成長を考えた時、日本企業の生き残りや成長の鍵は、アジアにあることは間違いなさそうだ。

ただ、新しいマーケットへの進出は新しいリスクを生むので、今までよりもっと精度の高いリスクマネジメントが求められることだろう。

ゲイツ、東芝と次世代原発 新興国にらみ競争が激化

日本の牽引役であった自動車、家電が影を見せる中で、日本が世界に通用する経営資源、そして、日本国内の産業の改革が少し見えてきた。まず、最初に原子力発電だ。アメリカ、ウェスティングハウス社を買収した東芝が、今度はマイクロソフトの創業者、ビル・ゲイツ氏と組み、新しい原子力発電に取り組むようだ。CO₂などの環境問題から大きく返り咲きの原発、今後の日本企業がどこまで力を出せるかが期待できよう。

また、日立は鉄道事業で世界に攻勢を掛ける。更に、アニメ、映像、音楽など日本の強い分野も12年で2.5倍の2.5兆円を計画する。物流でもITを使い、アジア物流の中核を握り、国際標準化に取り組む。

一方、国内の第一次産業である農業だが、三井化学は収穫量50%アップの米種子を増産する。以前、JFEが28期作の野菜の生産に成功したなど、企業の農業参入が目立ってきた。コンビニのローソン、居酒屋のワタミなど、化学メーカー、製鉄、コンビニ、居酒屋と参入する業界は様々。更なる加速に繋がるのは間違いないだろう。第一次産業の復活に期待しよう。

本コーナーは、(株)日本アルマック主催セミナー「全国リスクマネジメント研究会」の内容を編集したものです。セミナーの概要、参加申込方法等については、お気軽にお問い合わせください。

編集後記

「家庭教育学級」ご存知でしょうか？教育委員会の委託を受け、各公立学校のPTAが中心になり運営しています。仕事を持つ身ではありますが、今年度の運営役を引き受けることにしました(無謀?)。娘の小学校生活最後の年に、何か子ども達のためになることをしたい、という想いからです。以前の活動報告書に目を通し、それぞれの担当者が工夫しながら企画・運営している様子が見えて来ました。「市内在住・在勤すべての方が参加対象」となっていますから、皆さんもお近くの公立学校で興味のある企画があるか、一度チェックしてみてください。「専業主婦の暇つぶし」と思われがち(先の報告書記載)のきらいもあるようですが、平日の日中開催ではそう云われても仕方がないのかもしれない...。各学校の共通の問題点、それらがクリア出来る方法が、何かあるのでは？と、チャレンジしてみるつもりです。只今、初の日曜開催企画(スポーツと怪我)担当として、講師の方とわくわくしながら打合せ中です。(櫻井)



2010年5月発行 定価378円(税込)

株式会社 日本アルマック

〒102-0083
東京都千代田区麹町4-5桜井ビル4F
TEL:03-3288-2755 FAX:03-3288-2757
URL: <http://www.almac.co.jp>

ご意見・ご要望は上記までお寄せください。